

日出学園の教育目標や在園生の学園での様子を発信する年3回発行の情報紙です。



# 学園通信日出

学園通信「日出」Vol.48 2026年1月30日発行

<https://www.hinode.ed.jp/>

発行：学校法人日出学園

〒272-0824 千葉県市川市菅野3-23-1

MAIL: web@hinode.ed.jp



日出学園公式キャラクター  
日和かつぱ

2026.1  
Vol.48



## 特集1 2025年 日出祭 Review

座談会

小学校 児童会

中学校・高等学校 生徒会

日出祭実行委員会

### 日出学園 卒業生からのメッセージ

#### 小学校時代に培った「基礎の徹底」



小学校時代の黒崎先生  
日出学園小学校  
算数担当  
黒崎 琴葉  
Kotoha Kurosaki

私は日出学園小学校に6年間通ってました。当時は体を動かすことと、読書が大好きで、3年間体育クラブ、2年間図書委員会に所属し、クラブでトランポリンをすること、委員会での貸し借りの仕事をすることが特に好きでした。それから10年後、現在は小学校で教員として勤務しています。

在学中、最も印象深かった出来事は6年生の時の自然教室です。クラスの仲がいい友だちがある程度固定化してきていた6年生の時に、偶然同じ部屋になったクラスメイトがいました。その子とは同じ部屋になるまでほとんど話したことがありませんでした。しかし、2泊3日を共に過ごすことで、たくさん会話を交わし、お

互いの新たな一面を知ることができました。非日常を共に過ごすことで、仲を深められたことがとても嬉しかったことを覚えています。

また日出祭では、楽器や歌の練習に全力を注いでいたことを覚えています。一生懸命練習を続け、本番で成功した瞬間はとても達成感を得ることができました。教員になってから日出祭に携わると、子どもの時に気づけなかった視点から児童の姿を見ることができました。児童全員が、一つの目標に向け努力する姿がとても感動しました。自分がステージに立った時より、児童の真剣な姿を見守る方が緊張しました。

日出を卒業し、戻ってきて教員として働く中で強く感じるのは、日出学園で身につけた「基礎

の徹底」のありがたさです。当時は厳しく感じたけいさんくんやかんじくん(学習ドリル)の昇級試験によって、学習習慣を身につけられました。また、日出は兄弟学年などの異学年交流が多いことが強みだと思います。年上から学び、年下には優しく接するという経験は、社会で必要な礼儀や協調性を育ててくれました。変化の激しい時代だからこそ、日出で学んだ大切なことを忘れずに生活していきたいと常日頃思っています。

日出学園で学ぶ皆さんには、目標に向かって、粘り強く努力し続ける姿勢を大切にしてほしいと思っています。目標がすぐに達成できなくても、その過程で培われる力や、真剣に取り組む姿勢は決して無駄にはならないと思います。

### 巻頭言

#### 自由な発想で創る日出祭を



日出学園中学校・高等学校  
生徒会顧問  
原田 和大

う反省が上がっていました。

最大の理由は、運営の中心である生徒会と日出祭実行委員会の役割分担が曖昧だったことだと考えました。生徒たちは何をすべきかが分からず目の前の雑務に追われてしまい、「あれをやってみよう」という創造的な余裕を失っていたのです。

そこで今年、私が目標にしたのは、まずそれぞれの生徒が「やるべきこと」をハッキリさせること。そしてそれをやり遂げた上で、「やりたいこと」を考え、積極的に動ける枠組みを作ることでした。

この取り組みの成果は、生徒たちの振り返りにも表れています。

**生徒会役員より：**「今回生徒会の仕事の3分の1ぐらいが実行委員会の管轄に移ったこともあり、初めてコミックマーケットで

装飾を行ったり、『ヒノレンジャー』を復活させるなど様々な新企画をこなすことができました。来年度以降もうまく分担できるようにしていきたい。」

**実行委員より：**「キッチンカーに関して詳しいことを調べてなかったから、質問されても答えられないことが多かった。今年はホームページも関与できなかったから来年実行委員になったらそれも協力しながらやりたい。」

「やるべきこと」をしっかりこなした上で、「やりたいこと」を実現し、さらに次の改善点まで見据えています。この前向きな姿勢こそが今回の大きな収穫でした。この「やるべきことの明確化」は、生徒だけでなく、日出祭に関わる大人の連携においても非常に大切です。ひので会、父の会、同窓

会をはじめとする関係者の皆様には、長時間の打合せや迅速な情報共有にご協力いただけたことに、心より感謝申し上げます。

生徒たちは、「やりたいこと」だからこそ、失敗しても原因を分析し、積極的に改善に取り組みます。日出祭の経験を通じて、生徒たち一人ひとりが自分の役割をしっかりと果たし、「やりたいこと」に全力でぶつかっていく力を身につけてほしいと、顧問として強く願います。また、There is no limit to excellence.ということわざが示すように、来年はさらに素晴らしい日出祭になることを期待します。

今後とも、学校とご家庭が協力して、生徒たちの明るい成長を応援していけますよう、皆様の温かいご理解とご協力をお願い申し上げます。

**今** 年度も無事に日出祭を終えることができました。お忙しい中、日出祭の運営にご協力いただきました保護者の皆様、関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。実は昨年の日出祭の後、「生徒たちにもっと自由な発想を持ってほしい」とい

特集1

# 2025年 日出祭 Review

10月4日(土)・5日(日)

座談会  
小学校 児童会  
中学校・高等学校 生徒会  
日出祭実行委員会



今年度の「日出祭」は、日出祭実行委員会と生徒会との役割分担を明確にして準備が進められ、新たな企画に取り組みました。また、幼稚園、小学校、中学校・高等学校の連携企画では、今回初めて児童会と生徒会による合同企画会議が開かれました。そこで今回は、各組織の役員にお集まりいただき、「2025年日出祭Review(振り返り)」を行っていただきました。

## 生徒会と実行委員会で役割分担してそれぞれの活動に注力

**三代川想空さん**▶今年の日出祭の大きな変化は、「生徒会」と「日出祭実行委員会」の役割分担を明確にしたことです。生徒会には自由な発想で新しいことに挑戦してもらい、実行委員会は演目ポスターの管理や会計係などの運営業務を担いました。

**山口真生さん**▶昨年度までは生徒会が手一杯になってしまう状況が多かったのですが、小学校や保護者の方とのやりとりなど、たくさんの仕事を実行委員さんが担ってくれたので、テーマである「no limit」な日出祭になりました。

**三代川想空さん**▶「no limit」は、実行委員会での話し合いから生まれました。最初は5年生から「たまには横文字にしてみないか」という提案があり、コロナ禍でさまざまな制限を受けてきた僕たちですが、今ならその制限を突破していける、という意味を込めて決めました。

**堀航平さん**▶今年のキッチンカー企画は、僕が担当しました。夏休みに入ってすぐ、キッチンカーのマッチングサイトを使って募集をかけました。10社以上の応募があり、ひのででのキッチンカーとメニューが被らないようにして、依頼先を決めました。当日は、お店の方から「日出学園の生徒は明るくて素晴らしいね」という言葉をいただけて、それが何より嬉しかったです。

## 児童会と生徒会の話し合いで練られた幼小中高連携企画

**山口紗英さん**▶生徒会が取り組んだ「幼小中高連携」企画はこれまでも行われていましたが、初の試みとして、私が主担当となって小学校の児童会の皆さんとミーティングを開く機会を設け、生徒と児童が直接会って共同企画について話し合

した。2回行われたミーティングでは、私たち生徒会であらかじめ用意した企画案を児童会の皆さんに提示して、児童会の皆さんの意見も聞きながら、企画案を決めていきました。

**平井奏志さん**▶普段、中高生の人たちと話す機会はほとんどないので、最初は緊張しました。でも、短い時間の中で生徒会の皆さんが、今自分がハマっているものを話してくれるなど、話しやすい雰囲気を作ってくれて、すぐに打ち解けました。

**山口紗英さん**▶私も普段、小学生の皆さんと話することがありませんから、最初緊張しました。「どう接したらいいんだろう」、みたいな。

**吉野百夏さん**▶連携企画は小学1年生から6年生まで関わることになりましたが、中高生のアイデアはそのことも考えられていて、小学生でも参加できるとてもいい案だと思いました。

**山口真生さん**▶僕は昨年まで生徒会の役員として幼小中高連携企画を担当したのですが、最初、幼稚園児や小学校低学年の人たちがどのくらいできるのか分からずに企画を考えて、小学校の先生から「低学年には難しい」と指摘を受け、修正した経緯がありました。今年はその反省を生かして企画した「ガーランド」案だったので、決まるまでは割とスムーズにいったと思います。

**狭間陽太さん**▶ガーランドの準備や飾り付けなど、僕たちができるか不安でしたが、以前、山口さんたちが「分からないことがあったら、いつでも聞いてね」と言ってくださって、気持ちが楽になりました。

**時田隆成さん**▶生徒会側の新たな試みとして、僕は「スポンサー企画」を担当しました。本当にゼロからのスタートで、何から始めればいいのか分からない状態でした。

当初は企業を中心に考えていましたが、最終的には保護者の方々を中心に一口5,000円で協

賛を募る形にしました。集まった協賛金では、受付の生徒たちが着る法被を制作しています。前例のない中で企画を立て、原田先生とも夏休み中にメールで相談を重ねながら形にできたことは、大きな自信になりました。

## それぞれの得手・不得手を協力し合いながら実現した日出祭

**山口真生さん**▶僕は「コミックフェスタ」と、その会場の装飾を担当しました。これまでは作品を机に並べるだけだったところ、実行委員さんとの役割分担によって手が空いたため、今年は装飾に力を入れました。僕自身はデザインが苦手なため、絵が描ける生徒を募って協力してもらいました。これがきっかけで、中学生と高校生の仲が深まったと感じています。

ただ、失敗もありました。4階の渡り廊下の窓を黒いビニールで塞いだところ、太陽光で熱がこもり、ビニールが溶けてしまいました。想定不足を痛感しました。

**袴田悠太さん**▶学園祭にはトラブルがつきものです。僕は、みんながアクセルを踏んで走る中、不測の事態に備える「ブレーキ」のような役割を意識しました。装飾で使うガーランドが全部絡まって「もう無理だ」となった時も、焦っている自分をまず自覚し、冷静に人を集めて解決策を探りました。落ち着いて全体を見ることで、チームが正しい方向に進めるよう心がけていました。

**山口真生さん**▶袴田さんの存在は本当に大きかったです。先輩がいてくれたおかげで、4年生以下の僕たちも安心して自由に活動できました。

**時田隆成さん**▶僕が会長でいいのかなと思うくらい袴田さんは誰よりも全体が見えているし、彼がいなかったら生徒会は回っていなかったと思います。本当に感謝しきれません。

## 日出祭を役員として経験しての感想・反省・来年への抱負

**三代川想空さん**▶初めての体制変更で反省点もありますが、本当に貴重な体験ができました。

**堀航平さん**▶今回、僕は大人の方と交渉して準備する過程は大変でしたが、大人と対等に話す自信ができました。来年、キッチンカーを担当する人には「社会との関わり」を楽しんでほしいです。

**平井奏志さん**▶日出祭当日に、児童会として関わったガーランドの装飾を見に中高棟に行ってみると、きれいに飾られていて嬉しかったです。それに、皆さんすごく楽しそうにしている、身近にいてもなかなか知ることのできない、そのままの中高生を見ることができて、すごく新鮮に感じました。

**狭間陽太さん**▶中高生の人たちとの話し合いは夏休み前でしたが、中高生たちは夏休み中も日出祭の準備を進めていたのを知り、すごいいいと思いました。

**吉野百夏さん**▶普段行くことのない中高棟に、日出祭で行ってみると、美味しそうな食べ物匂いがしていました。また、小学生では絶対にできないようないろいろの出し物がたくさんあって、びっくりしました。

**山口真生さん**▶今回の日出祭でできたこと、できなかったことの反省を踏まえて、来年は小学生の皆さんや幼稚園、保護者の皆さんを含め、多くの人を巻き込んで、生徒からも、もっと自由な発想で「こんなことをやりたい!」というアイデアがたくさん集まるような日出祭を目指します。

**袴田悠太さん**▶仲間と協力して乗り越えた経験は一生ものです。日出祭を通じて得た縁や関係性を大切にしていきたいです。

**時田隆成さん**▶運営側に回って初めて、企画を動かす難しさと面白さを知りました。実りある日出祭を開催することができ、皆さんに感謝します。

※小学校児童会会長 6年1組 小林紫苑さんはReview当日欠席

## Hinode Festival Supporter Review Comments

### ひので会 学園祭は「おいしく、楽しく」 ひので会日出祭実行委員長 白根裕子

ひので会の日出祭での活動は、今年も「キッチンカー」と「ミニワークショップ」で参加いたしました。保護者や生徒、他の来場者向けの食事を提供する目的で誘致しているキッチンカーは毎年ご好評をいただき、今年は、オムライス、焼きそば、クロッフル、マラサダドーナツに、実行委員がセレクトしたクレープと肉巻きおにぎりが加わり、いっそう盛り上がりを見せました。ミニワークショップは、園児や小学生が短時間でも楽しめる遊びをと、缶バッジやキーホルダーづくり、手軽に遊べる折り紙や塗り絵を用意。親子ともに喜んでご利用いただけたようです。

事前準備では幼・小の幹事さんがカラフルで可愛い看板などを作成。当日の運営ボランティアは80名を超える登録があり、皆様のご協力でひので会としては大成功を取ることができました。あらためて感謝いたします。コロナ禍の制限があった時とは違い、生徒も保護者も、発想・行動が自由で楽しめた「no limit」な学園祭であったと感じます。

### 父の会 プレイパークほか、力仕事にも柔軟に対応 父の会 幹事 松本邦愛

父の会は、日出祭ではアリーナ2の4分の1を使用し、例年通りプレイパークを作りました。内容は、段ボール迷路、手品教室、割り箸鉄砲射的、化学実験、アンケート、みんなのメッセージ、バルーンアートを実施しました。またアリーナ2の飲食スペース管理やその他の力仕事にも任意団体としての強みから柔軟に参加できました。

今年も中高生が主体的に日出祭を運営してくれたので、例年よりも盛況な学園祭となりました。生徒たちは業者との調整などいろいろ苦労することもあったと思います。父の会には多種多様な職種メンバーがおりますので、困ったときには頼っていただければ嬉しいです。

父の会の活動は運営面で反省すべき点はあったものの、概ね児童には好評だったと考えています。次年度は中高生とコラボレーションし、学園一体となった企画を行いたいと考えています。幼稚園・小学校・中高と同日に行う学園祭の理念にも沿う企画を立てるのが課題でしょう。

### 同窓会 日出祭を縁の下で活気づける同窓会 日出学園同窓会 事務局 大塚美和

同窓会では、日出祭の前身となるイベント《ひのでの集い》の頃より、在校生との繋がりを大切にしながら、かつ在校生に楽しんでもらうために、さまざまなお店を展開してまいりました。最も人気だったのは瑞穂会(同窓生による水泳指導団体)による「餅つき」で、毎年長蛇の列になるほどでしたが、昨今では衛生管理上の規制が厳しく、ここ数年は「おしるこ」を提供しています。

日出祭に参加するにあたり、まず中高生の出店内容を確認し、同じ販売物にならないよう気をつけています。また在校生の皆さんが校舎の中から日出祭を盛り上げているのに対し、同窓会はピロティで日出祭を活気づけています。ピロティで行っている「ボックスくじ」は、その年の春に卒業した同窓生を中心に配置しており、在校生との繋がりを感ぜられる場を作っています。一方で駄菓子などの仕入先や、バルーンを提供している者もオール同窓生で、同窓会は縁の下から日出祭を支えています。

## 2025年度 学校評価アンケート結果報告

# 2025年度《学校評価アンケート》結果報告

今年度の学校評価アンケートに多くの皆様より回答をいただき、ご協力に感謝申し上げます。  
各校別の2025年度アンケート結果について報告いたします。

### 学園全体

学校(園)生活の満足度については、教職員間、園児児童生徒と教員および友人同士のいずれにおいても良好な関係が築けていることが分かりました。今後期待する事項として、幼稚園は「生活習慣の確立」、小学校は「自主性を育む教育内容の充実」、中高は「進路・進学指導の充実」が各々上位に位置し、年齢に応じた基本的な生活習慣から勉学や将来を重視した事項へと変化しています。課題は、小中高のいずれにおいても「相談できる教員、カウンセラーがいるか」という設問に対し、教員および保護者と児童生徒では評価度合いが異なる点です。児童や生徒が悩みを打ち明けにくかったり、相談相手が分からなかったりしている割合が一定数あり、教員・カウンセラー・保護者間の連携が今後必須と考えます。

### 幼稚園

幼稚園は、友人との関わり方など園児の成長に深く結びついている

「自由に遊ぶ時間」を、保護者・教員ともに重要視されています。期待する項目は「生活習慣の確立」「自然とのふれあい」「小学校進学準備」「自由な遊び」の順に多く、バランスの取れた保育の構築と実施を推進していきます。

### 小学校

小学校は、「自主性を育む教育内容」に関する期待度が昨年同様高く、今年度は特に英語・理数系教育への関心が高い結果となりました。また、学校の雰囲気の良いから内部進学希望割合が上昇傾向にあるものの、外部中学校受験の理由として「大学進学実績」が上位を占めており、日出学園中学校・高等学校の教育内容の充実や大学進学実績をこれまで以上に分かりやすく理解・認識いただける工夫をまいります。

### 中学校

中学校・高等学校は卒業後の進路、および将来を考える時期にあたるため、学習内容の定着や自主的な学習姿勢、並び

に進路指導が重要視されています。特に「進路・進学指導」への期待度が高く、大学選択のための情報提供など、一人ひとりが納得のいく進路・進学選択ができる環境整備に力を入れていきます。

評価が向上している項目については、これまで以上に強化していくとともに、重要項目であるにもかかわらず、過年度よりも評価・実績が低下した項目については、各校・園ともに、改善策を検討・実施してまいります。詳しくは、各校別に校長・園長より保護者宛に別途発行の報告文書をご確認ください。

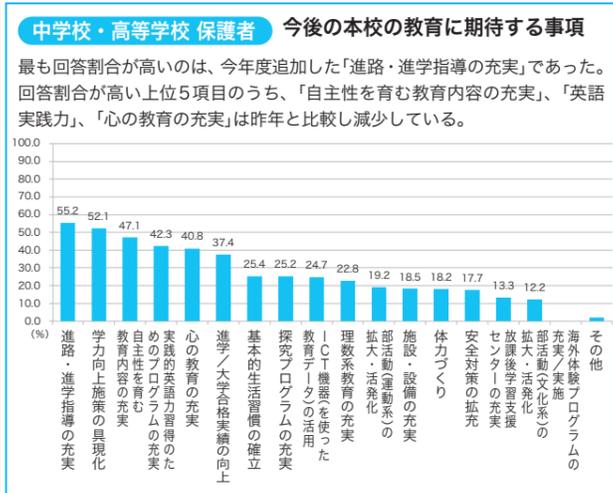
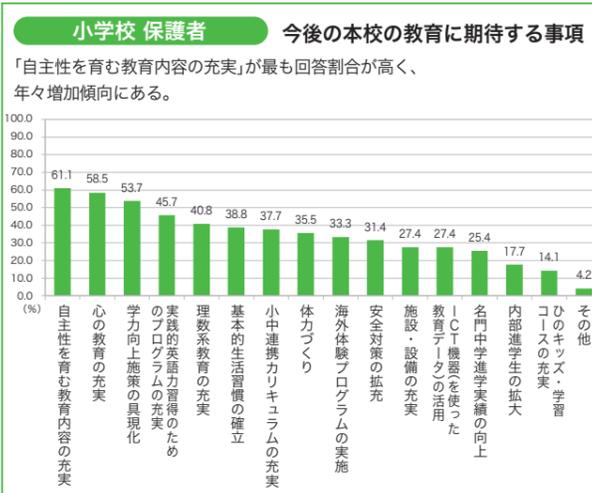
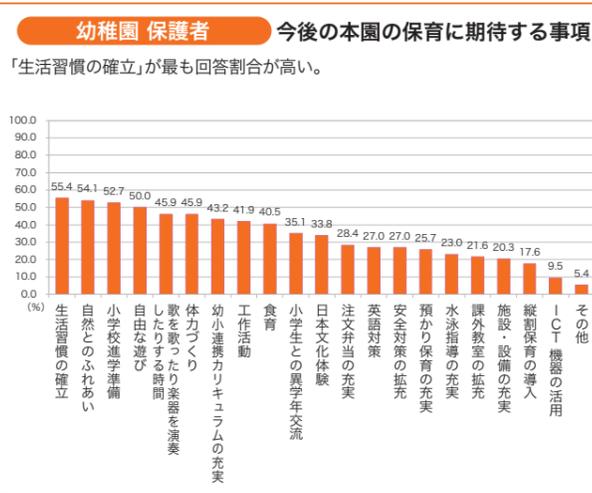
保護者様の回答状況は、前年度比で、幼稚園マイナ3.2pt(回答率89.2%)、小学校プラス9.7pt(回答率89.4%)、中学校・高等学校プラス7.6pt(回答率76.3%)となりました。

3校とも70%後半～80%後半の回答率となり、

### 学校評価アンケート実施状況 (2023年度～2025年度)

学年	属性	年度	実施人数	対象者人数	実施率
幼稚園	保護者	2025	74	83	89.2%
		2024	85	92	92.4%
		2023	75	85	88.2%
	教員	2025	19	22	86.4%
		2024	13	13	100.0%
		2023	9	13	69.2%
小学校	保護者	2025	547	612	89.4%
		2024	495	621	79.7%
		2023	447	610	73.3%
	児童 4・5・6年	2025	280	308	90.9%
		2024	283	308	91.9%
		2024	283	308	91.9%
教員	2025	38	46	82.6%	
	2024	37	43	86.0%	
	2023	39	43	90.7%	
中学校・高等学校	保護者	2025	641	840	76.3%
		2024	571	831	68.7%
		2023	616	879	70.1%
	生徒	2025	742	840	88.3%
		2024	716	831	86.2%
		2023	730	879	83.0%
教員	2025	65	82	79.3%	
	2024	65	79	82.3%	
	2023	38	79	48.1%	

特に小学校、中学校・高等学校は大幅に回復となりました。これは保護者の皆様の意思表示のひとつと捉え、要望に対して真摯に向き合っており、次年度以降も、是非ご協力をお願いいたします。



## 特集2 《幼稚園／小学校／中学校・高等学校 交流活動Report》

### 中学校 高等学校 × 幼稚園

### 中学3年生家庭科「幼児との関わり」保育実習を幼稚園と連携して開催

コロナ禍が一段落した2022年度から始まった、中学3年生が幼稚園に向かい保育実習は、以来、中学3年生の恒例授業となっています。中学3年生の『技術・家庭科学習指導案』では、「幼児との関わり方を考えよう」を題材に、自分の幼児期の振り返りや、幼児との触れ合う活動を通じて、幼児の心身の発達やそれを支える家族や周囲の人の役割を理解することを目標としたカリキュラムを組んでいます。

授業を担当するSTEAM科(家庭)の小松菫菜先生によれば、「以前は、教材ビデオを見て幼児の発達を学習していましたが、実際に幼児との触れ合いを通してではないと理解しにくかったり、授業に興味を持てなかったりする生徒もいて、せっかく学園内に幼稚園があるのであれば、そこで保育実習をお願いできないかと相談したところ、幼稚園からも快諾を得られ、毎年秋に中学3年生の全クラスが幼稚園で保育実習を行うようになりました」と、これまでの経緯を振り返ります。

今年度は、11月下旬から12月にかけて、幼稚園年少・年中・年長の各クラスと中学3年生の4クラスがそれぞれ交流しながら保育実習を行いました。



自分たちの作ったおもちゃで園児が楽しめるか、授業で体験(3年2組)

幼稚園では各クラスの幼稚園教諭が指導しながら、幼稚園ホールでの全体遊びや教室でのグループ遊び、園庭での自由な遊びなどを、中学生と園児が触れ合いながら、体験しました。

中学3年では1学期から「幼児との関わり方」の授業を行い、夏休みには幼児のスキルに合わせたおもちゃ作りの課題に取り組んだり、保育実習後は、体験を踏まえた振り返り授業も行います。

「保育実習を通じて園児と触れ合うことで、小さい子との距離感や投げかける言葉の選び方を学びます。また、子どもを預かることの責任を意識させ、怪我をさせない配慮、適切な声掛けなどのコミュニケーションを学ぶと同時に、『こちらから心を開かないと相手も心は開かない』という原則を理解する上でも、幼児との関わりは最適な機会と考えます。この授業を通じて、積極的なコミュニケーションの重要性を伝え、自分から情報を共有し、会話を広げていくことの大切さを指導しています」(小松先生)

今後社会に出て直面するかもしれない、世代間のコミュニケーションギャップを埋めるヒントが、この保育実習にはあるようです。

中学3年生による幼稚園での保育実習の動画はQRコードをスマホで読み取ってご覧ください。▶



3年4組とばら組(年長)の保育実習。短い時間ながら工作を通じて打ち解けた雰囲気

### 小学校 × 幼稚園

### 1～2年後の“兄弟学年”を想定した児童と園児のお弁当交流会



4年生は来年、兄弟学年になるかもしれない園児と進んで会話を

幼稚園園児と小学生との「お弁当交流」も、日出学園ならではの異文化交流の場面です。2学期にお昼休み時間を使って、小学3年生と4年生が幼稚園園児と一緒にお弁当を食べ、その後一緒に遊ぶこの交流会は、貴重な異文化交流の機会となっています。

さらにお弁当交流は3年生と年中クラス、4年生と年長クラスがペアになりますが、これは幼稚園園児が内部進学で小学校入学した時に、兄弟学年としてペアになることも想

定した組み合わせです。そのため、小学生たちは、事前に各クラスで、お弁当交流の注意事項を確認します。

「今回、4年生たちは昨年度のお弁当交流会での反省を踏まえ、一緒に遊ぶ機会に偏りが出ないように、お弁当を食べる時のグループを固定して園児と一緒に遊ぶようにしたり、小学生から短い言葉で自己紹介をする、困っているような園児がいたら声をかけて安心させるなど、小学生からコミュニケーションを働きかけることの大切さを確認していました」(4年3組 橋本和弘先生)

小学生からは「幼稚園の子がもじもじして緊張していたら、面白いことを言って笑わせる」や、「やりたい遊びとか、いつもどんなことをしているの?」とかを質問する」といった意見も。

小学生の中には卒園した幼稚園を懐かしむ姿や、普段の顔とは違う、お兄さん、お姉さんとなって園児に優しく接するシーンも随所で見受けられたお弁当交流会でした。



幼稚園の遊具で園児と一緒に遊ぶ小学生は、懐かしい幼稚園の景色に童心に戻ったような様子も(円写真) ドッジボールは園児も小学生も大好きな遊び。小学生は元気な園児を相手に手加減しながらボールを当てに(下写真)

お弁当交流の動画はQRコードをスマホで読み取ってご覧ください。▶



幼稚園

内田伸子先生特別講演会「AIに負けない力をどう育てるか～非認知能力は遊びを通して育まれる～」開催

12月19日 日出学園幼稚園ホール



内田伸子先生 Profile

IPU・環太平洋大学教授、お茶の水女子大学名誉教授、十文字学園女子大学名誉教授【専門分野】発達心理学、言語心理学、認知科学、保育学【主要著書】『AIに負けない子育てーこは子どもの未来を拓く』(ジエラス教育新社2020)、『想像力ー生きる力の源をさぐる』(春秋社2023)他多数【受賞歴】国際賞・功労賞(日本心理学会2016)、文化庁長官表彰受賞(2019)、文化功労者(2021)、《叙勲》瑞宝重光章(2023)他。

発達心理学、認知心理学、保育学の第一人者であり、お茶の水女子大学名誉教授の内田伸子先生の特別講演会『AIに負けない力をどう育てるか～非認知能力は遊びを通して育まれる～』を12月19日、幼稚園ホールで開催しました。内田先生にはこれまでも何度か保護者向けにご講演いただいております。今回は8年ぶりの講演となりました。また、日出学園幼稚園園長の早川好江先生が主宰する保育者向けの研究会でも、内田先生は度々本園を訪れています。

今回の講演はAIが人間にとって変わる時代の到来が予想される中で、「AIに負けない力の育成」と「幼児期からの経験・言語・対話による学びの質の向上」「園・家庭・地域での継続的な取り組み」について、これまでの研究成果に基づいた知見をお話いただきました。

特に印象的だったのは、絵本の読み聞かせが「会話能力」を強化するというお話です。内田先生は5歳児後半ごろに「談話文法」の能力を獲得すると言及されており、これは日出学園幼稚園でも以前から大切にしている、「絵本の読み聞かせ」の重要性を裏付けるものでした。

そして、「非認知能力」(社会性・自制心・忍耐・実行力・挑戦力)こそがこれからの時代に求められる能力であり、そのためには幼児期から小学校低学年にかけて豊富な遊びを経験することが大切であると内田先生は強調。「親や保育者は過度の先回り・命令・判定は避け、提案型の言葉かけを行う『賢い脇役』であるべき」と述べています。

約2時間に及び講演会でしたが、聴講された方々は、内田先生の言葉一つひとつに深くうなずかれています。



「内田伸子先生特別講演会」のダイジェスト動画は、幼稚園ホームページに掲載しています。QRコードをスマホで読み取ってご覧ください。

中学校 高等学校

「二十歳未満の飲酒防止」キャンペーンで中高生徒会が市川駅前呼びかけ

11月19日 JR市川駅北口ロータリー

市川酒類業懇話会が主催する「二十歳未満の飲酒防止並びに飲酒運転撲滅街頭キャンペーン」に、同懇話会の要請を受けて、中学校・高等学校生徒会の有志、生徒会顧問の原田先生が、11月19日の夕刻、

市川駅北口ロータリーで、20歳未満の飲酒防止を呼びかけてポケットティッシュ



生徒会有志と一緒にキャンペーンに参加したチーバくん(千葉県)、イータ君(国税庁)、シーボック(千葉県警)と記念撮影

を配布するキャンペーン活動に参加しました。

こうした活動への参加は、ほとんどの生徒が初めて。生徒たちは最初こそ緊張しながら呼びかけていましたが、「ティッシュを受け取ってくれるか不安でしたが、多くの方が受け取ってくださり嬉しかったです」といった感想や、「活動に参加して、あらためて自分自身も20歳未満の飲酒や、将来、飲酒運転をしないようにという想いを強く持ちました」と、参加した意義を語っていました。

受賞報告

小学校 『全国小・中学校作文コンクール』で阿部莉士さん(1年)が千葉県審査で最優秀賞に。

1年2組の阿部莉士さんが夏休みの課題で書いた作文、「ぼくはカブトムシのおとうさん」が、第75回『全国小・中学校作文コンクール』(主催：読売新聞社/後援：文部科学省ほか)の千葉県審査で最優秀賞を受賞(低学年の部)。中央審査へ進みました。阿部さんは昨年カブトムシを飼い始め、メスが産卵した小さな卵を大事に育て、その卵を孵すことができました。そうした阿部くんの日々カブトムシをお世話する姿を見たお母さんに、「まるでカブトムシのお父さんみたいね」と言われたことがヒントになって夏休みに作文を仕上げ、学校を通じてコンクールに応募しました。小学校に入学して初めて書いた作文が、千葉県で最優秀賞受賞との知らせを聞いた時、「すごく嬉しかった！」と阿部さんは大喜び。カブトムシ同様、これからの阿部さんの成長も楽しみです。阿部さんの受賞作文は、日出学園ホームページ「学園通信」からご覧ください。

小学校 渡邊充さん(1年)がまとめた「どんぐりころころ」の研究が『海とさかな』全国コンクールでニッスイ賞を受賞

第44回『海とさかな 自由研究・作文コンクール』(主催：朝日新聞社/協力：公益社団法人日本動物園水族館協会/協賛：ニッスイ/後援：農林水産省、文部科学省ほか)で、1年3組の渡邊充さんの自由研究、「どじょうはほんとうにどんぐりと遊んでくれるかな?『どんぐりころころ』のけんきゅう」がニッスイ賞を受賞しました。渡邊さんは「どんぐりころころ」の歌が大好きで、お兄さんが飼っているドジョウは、どんぐりと遊んでくれるのかな?という疑問から夏休みに研究を開始。観察の結果、「シマドジョウはどんぐりと遊んでくれる!」の結果を導き出しました。授賞式は12月13日にZoomでライブ配信で行われ(左写真)、渡邊さんは研究の成果をしっかりとプレゼンテーションしました。

小学校 『全国小学校ラジオ体操コンクール』で「かんぼ生命特別賞」「エリア奨励賞」「ルーキー賞」のトリプル受賞

今年度の「新緑の運動会」を前に、3年生が1年生にラジオ体操を教える合同授業が行われ、授業の様子が合同練習の動画を、第12回『全国小学校ラジオ体操コンクール』(主催：かんぼ生命)の「取組部門」に応募し、見事「かんぼ生命特別賞」を受賞しました。また、「技術部門」に応募した4年生のラジオ体操は、2チームが「エリア奨励賞」と「ルーキー賞」を受賞。授業を担当した後藤紗智子先生は、「3・4年生どちらも受賞できて大変嬉しく思います。『全国大会!』と目を輝かせて練習した子どもたちの頑張りが形となって、本当によかったです」と、初受賞の喜びを語っています。

中学校 高等学校 『心の輪を広げる体験作文』で久川晴葉さん(4年)が千葉県知事賞最優秀賞を受賞

令和7年度『心の輪を広げる体験作文』(主催：内閣府、都道府県及び指定都市)の千葉県審査で、4年1組の久川晴葉さんの作文が高校生区分で最優秀賞を受賞。内閣府へ推薦されました。11月19日には青葉の森公園芸術文化ホールで授賞式が行われ、熊谷俊人千葉県知事より賞状が授与されました(左写真)。作文タイトルは『誰もが安心して共に生きられる社会を目指して』。公立や大学の図書館見学、調査研究を通して、作文では「図書館はすべての人に開かれた学びの場であるべき」という思いから「将来、図書館司書としてユニバーサルデザインを活かした図書館づくりに携わりたい」と、今後の目標が綴られています。久川さんの受賞作文は、日出学園ホームページ「学園通信」からご覧ください。

小学校

「はじめての落語・演芸鑑賞会」が開催 児童も高座に上がって落語の“しぐさ”を体験

12月11日 日出学園アリーナ1

今年度の芸術鑑賞会「はじめての落語・演芸鑑賞会」が、12月11日に開催されました。3・4時間目は低学年、5・6時間目は高学年に分かれ、寄席や演芸場で見られるような落語、色物と呼ばれるマジック・紙切りなどの演芸を目の前で観られる、絶好の機会となりました。

出し物の合間には、噺家、三遊亭遊かりさんの指導で、落語の小道具である扇子を手紙に見たてた“しぐさ”を児童が高座に上がって体験しました。6

年生の児童は花火のしぐさを披露し、会場から喝采を浴びる一幕も。鑑賞会を担当した富樫紗弥先生はこの日の児童の様子を、「落語は子どもたちの想像力や言語表現力を育む日本の伝統芸能です。落語を聞いて、『話だけなのに、情景が見えた!』と、想像することの楽しさや言葉の力に気づいた様子でした」と、語っています。



前座、笑福亭ちづ光さんの落語 林家喜之輔さんの紙切り 小泉ボロンさんのマジック 三遊亭遊かりさんから児童に、落語ならではのしぐさの指導を

小学校

キッズ・スポーツチャレンジで小学3年生が「社交ダンス」に挑戦

1月15日 日出学園小学校 多目的室

小学3年生が、1月15日に体育授業のプログラム「キッズ・スポーツチャレンジ」で、「社交ダンス」に挑戦しました。ご指導くださったのは、プロのダンサー、石垣和宏先生と苅谷芽唯先生のペア(右上写真)。お2人は、日本の社交ダンス界の3大競技会のひとつ、2025年「ギャラクシーマスターズダンス選手権大会」で準優勝された実績も持ちです。当日は3年1組から3組まで、各1時限ずつ、石

垣先生・苅谷先生のご指導で社交ダンスに取り組みました。ほとんどの児童にとって社交ダンスは初めての体験。授業の冒頭、石垣先生・苅谷先生が模範演技を披露すると、児童たちはその華麗な演技に見惚れながらも、「自分たちにもできる?」と不安げな様子でした。

それでも、石垣先生たちが見本を見せながら、最初は個人で脚を「開く」「閉じる」「クロスさせる」、腕を伸ばすという振りを何回か練習し、次にペアでその振りを練習すると、児童たちの社交ダンスもだんだんと様になり、最後は曲に合わせての「発表会」まで漕ぎ着けることができました。

「難しそうと思ったけれど楽しかった!」。ある児童の言葉に、初挑戦の感動が集約されていました。

◀小学3年生の「社交ダンス」の様子は、QRコードをスマホで読み取ってご覧ください。



編集後記

世代が異なる交流が今年も随所で 今号でも紹介されていますように、幼稚園から小学校、中学校・高等学校まで、さまざまな形の異学年・異学校交流が、今年度も行われています。子どもの出生率が低下するなか、市川市でも一人っ子世代が増加傾向にあります。兄弟・姉妹がいなくても、世代の違う園児・児童・生徒が交わり、お世話された子がやがてお世話をする側に。日出学園ならではの微笑ましい光景です。 編集発行人 学校法人日出学園 学園長 青木 貞雄

学園通信「日出」 Vol.48 2026年1月号 ※本紙掲載記事・写真の無断転載を禁じます。 発行 2026年1月30日 編集発行人 青木 貞雄(学校法人日出学園 学園長) 編集 学園通信「日出」編集委員会 幼稚園 池部かほり 澤居未来 小学校 廣嶋秀行 長谷川亜穂子 日下瑞穂 中学校・高等学校 石川 茂 法人企画室 児玉尚樹 児玉孝喜 渡邊広樹